

「ストレス」と「癒し」の研究会 ～第4回講演会のご案内～

日時:平成 23年3月7日(月)18:00～19:30

場所:和歌山県立医科大学・医学部 研究棟3F 大学院セミナー室

日毎に春の訪れが感じられる今日この頃、皆様如何お過ごしでしょうか？

虐待による痛ましい子供たちの死、子供たちの心の傷、これらは子供を虐待してしまう大人のストレスの問題ではないでしょうか。子供だけでなく大人の世界にもはびこる「いじめ」や「いじめ自殺」、ネット依存によりコミュニケーション能力と人間的なつながりを欠如した若者たち、不登校や「ひきこもり」の増加、無差別殺傷事件、など気になる精神・社会病理現象が増えてきています。

この機会に現代の若者が抱える心の問題について考えてみてはどうでしょうか。

いろいろお忙しいことと存じますが、是非ご参加下さい。

一般の方の参加も歓迎致します。

演題1: 『小児を取り巻く環境とストレス～子ども虐待による心の傷～』

演者: 柳川敏彦 先生 (和歌山県立医科大学保健看護学部教授)

講演要旨:

子どもが、最も信頼し、最も愛している対象であるはずの親から、慢性的に身体的暴力、性的暴力を受ける、生活上の基本的な世話を受けずに放置される、あるいは親から脅されたり、ののしられたり、軽くあしらわれるなどの状況が続いた場合、子どもに多大な影響が生じることは容易に想像される。虐待された子どもは、時に非常に攻撃的であり、挑戦的であり、反社会的行動を引き起こす。また、抑うつや対人関係の問題、さらには多重人格を含めた解離障害、低い自尊感情など様々な心理・精神障害が報告されている。子ども時代のストレスで脳はいかに傷ついていくのか、そしてそれが癒されない傷なのかについて考察する。

演題2: 『現代の若者は何故ひきこもるのか?』

演者: 宮西照夫 先生 (和歌山大学保健管理センター)

講演要旨:

戦後、私たちを取り巻く社会文化環境は急激な変貌を遂げてきた。敗戦、高度成長期とその終焉、そしてバーチャル・コミュニケーション時代の到来。また、その時代を支配する主義主張や価値観も、国家主義から組織管理主義、そして個人・実力主義へと大きく変化し続けてきた。当然のことながら、この急激な社会文化変化の過程で、様々な精神病理現象が生じた。若者のスチューデント・アパシー、社会的ひきこもり、そして、ネット依存はその代表的な病理現象である。ひきこもりを中心に、これらの病理現象から、現在の若者が何を悩み、何を求めているのかを考えてみたい。

皆様、奮ってご参加下さい!

連絡先:「ストレス」と「癒し」の研究会 第二解剖 仙波恵美子 TEL 073-441-0617